

特定営利活動法人チーム学校給食&食育

国際委員会 2025 年度 ベトナム視察 活動報告

国際委員会委員長 金子 政道（東京サラヤ株式会社）

期間：2025 年 11 月 11 日（火）～2025 年 11 月 15 日（土）



※ベトナム社会主義共和国 ダナン市 ハイバーチュン小学校

月日	時間	訪問先	備考
2025年11月11日（火）		① FIDR ベトナム事務所	意見交換会
2025年11月12日（水）	8時30分～	② ダナン教育研修局	視察・意見交換会
2025年11月12日（水）	10時30分～	③ ハイバーチュン小学校	視察・意見交換会
2025年11月12日（水）	14時15分～	④ ダナン疾病予防センターCDC	視察・意見交換会
2025年11月13日（木）	11時～	⑤ クアンチエン・ドンザン高等学校	視察・意見交換会

NPO 法人学校給食＆食育 国際委員会 2025 年度 海外視察 概要

視察先：ベトナム社会主義共和国

日時： 11月11日（火）～11月15日（土）

目的：ベトナム社会主義共和国における学校給食の現状把握及び取組内容の理解、日本の学校給食制度との比較、意見交換、両国の学校給食の普及、向上に向けた協力の可能性を探る。

① FIDR ベトナム事務所

FIDR の概要

FIDR は、日本の国際協力 NGP・財団で 1990 年に設立された。

主な目的は、アジア地域（ベトナム・カンボジア・ネパール）を中心に関発途上国において子供たちの福祉向上や地域の自立発展を支援すること。

並びに、日本国内外の自然災害に対して、緊急援助や復興支援も行っており、広報啓発を実施している。

ベトナム・カンボジアでの取り組みについて

ベトナムでは 25 年前から取組みを実施している。

少数民族が対象。

現地の人達が自分たちの力で地域をよくしていくようになることを開発、慈善活動しており、様々なことを実施している。

取組当時は、何もなく、基盤づくり、学校づくり、地域クリニックの設立支援も実施している。

農村開発：ベトナム少数民族地域における地域資源を活用した発展型農村総合開発事業を展開。

伝統文化：主にカトゥー族などの伝統織物を使った手工芸品の生産支援

その他、農業資源、観光資源などの地域資源を活かして、収益化をすることで、地域自立を支援している。

カンボジアでは、ポル・ポト政権が終わったが、内戦で医療や学校等社会的な問題が多くある。その中で多くの医者が殺されたこともあり、医療施設や医療従事者が大きな影響を受けた。子供の手術ができない、小児外科を確立する事が急務だった。国立病院の医師への支援を実施し、育ててきた。地方へ医療体制の強化も進められてきたが、手術した子供たちがなかなか良くならない実態があり、栄養バランスを考慮した病院給食提供体制を構築した。栄養教育を教材に盛り込み将来的な食事改善に繋がる取組も実施している。また農村開発や世代間での生活を支援する取組を実施しながら、自分の力で生きていく力を養うフォローをしている。



ベトナム事務所 大槻所長からのプレゼン



ベトナム事務所職員との意見交換



取組が評価され、数々の感謝状



現地少数民族作成商品

感想

今回のベトナム視察でアテンドいただき FIDR より東南アジアでの取組紹介と今視察のスケジュール案内を受けた。FIDR の活動は、子どもたちの福祉向上、地域の自立発展に寄与する事であるが、医療体制の充実や学校保健、栄養向上活動等、多岐にわたっており、様々な苦労がある中で活動されているのだと感じた。多岐にわたる支援活動を紹介いただき、改めて現場に根差した地道な取り組みの重要性を実感した。

特にベトナムにおける少数民族で作成された織物や農作物の商業化に代表される自分たちで生きていく仕組みを構築する取組は、大変印象的で非常に素晴らしいと感じた。

サラヤグループもグローバルな社会的な課題に対して、ビジネスを通じて持続性がある取組を実施しているため共感する点が多かった。FIDR とのコラボレーションも今後、検討していきたいと思った。

② ダナン市教育研修局

参加者：ダナン市教育研修局副局長タンさん・衛生、栄養専門家ウンさん・小学校化学の先生タオさん
ハイバーチュン小学校の先生・保育園の先生・視察メンバー

現状と課題、今後の対応について

ダナン市教育研修局は、行政機関、学校給食の仕組みを構築。

学校給食は、国の方針で社会的弱者、片親を優先で無償提供。

その他の家庭は、給食費を徴収して給食を提供している。

すべての学生に対して実施する意向。主に保育園、小学校、地方の寄宿舎学校に強化している、

献立は、保健局との協力、各学校が作成、栄養、衛生は、専門家の助言でレギュレーション、トレーニングを受けた先生がいて、アドバイスしている。基本、栄養ピラミッドに沿って作成している。

栄養士を増やしたいと思っている。

両親の意見も大事にしている。PTAで共有、意見を取り入れている。

自由度の高い状況。家で食べる、学校で食べる。

学校給食法と同じく法律に沿って実施。衛生は、管轄の保健局より方針がある。食材の保管、水のチェック等。

プライベートスクール（私学）はタッチしていない。

保育園では、朝、昼、晩の3食を提供。外資系の工場が多く、両親の仕事の影響で夜も提供している。

提供するだけでなく、基準値を設定して、基準値に沿って栄養価を考慮して提供するようになってきている。

日本の長崎県とダナン市は、姉妹都市。長崎大学で日本学の校給食のトレーニングを受けた。献立のやり方が参考になった。教育の一環として学校給食を実施している事が素晴らしいとの事。

2025年よりクアンナム省と一緒にになり、学校が10倍になった。少数民族も含まれるようになり、栄養不足が多く、都会と地方の格差が大きい。これから数年かけて統一化が必要。栄養、食事、体力を関連付けて統一しているため、日本の取組を参考にしたい。

都市は、教育が進んできているが、地方の山間部は、栄養不足や貧困世帯が多い。

感想

今年、ダナン市が合併により制度や運営体制を再構築する段階であり、都市と地方の格差が顕著であることを強く感じた。まだまだ貧富の格差があるのだと思う。教育研修局としても社会的弱者に対して学校給食を提供しており、どちらかというと福祉的な対応をしている。

栄養や衛生の基準はあるようだが、まだまだ仕組みとして地域格差があるので整っていないように感じた。



ダナン教育研修局入口



副局長タンさんと職員の皆様との意見交換



視察メンバーの記念撮影



ユンさんと視察者との意見交換



教育研修局関係者との記念撮影

③ ハイバーチュン小学校

参加者：ハイバーチュン小学校校長先生、副校長先生、視察メンバー

現状と課題、今後の対応について

ハイバーチュン小学校は、ダナン市のモデル校。

給食室は、検品・下処理室、調理、洗浄が区分されている。

食数は、1,400 食。2 か所で調理しており、800 食と 600 食で分かれている。

学校の基準があつてユーチューブで楽しんで教育をしている。体に良いものだと食べる前に教育している。

調理員は、100 名に対して 1 名の基準があり、10 名所属。

ライフスキルの向上。美味しいもの、団結、教育局、保健局のイニシアティブ リピート教育

月 1 人@4,000 円の給食費を徴収。ランチ、スナック（牛乳とヌードル）100%両親より、公立学校は、統一

給食費の中より@700 円調理員への人件費となるが、安いため、ギフトボーナスがある。

調理員の動き、良いチームワーク。

好きな給食は、チキンライス 嫌いな食材は、野菜。

メニューは、CDC、教育局でトレーニングを受けて会計担当が実施。

ブッフェスタイル時もある。その際は、違う食器を使う。

基本、熱湯消毒 搬入、入札で実施 仕入れ品、校長先生に写真送付

フードロスで養豚場に販売している。

メニューは豊富にするようバラエティーに富んだものとする。

朝、売店や屋台で食べる習慣あり、衛生面も踏まえ、学校で食べる方向にしている。

2020 年学校給食開始。ハノイで決定したものを各地域で。ダノンは、直轄地。両親の状況により変わる。朝食をとるような体制に、屋台を規制するように 生産地がわかるように、一緒に味を確認したりしている。

感想

ダナン市のモデル校であることもあり、施設面は整備されていた。

児童たちは明るく、イキイキとして見学時、非常にフランクに接している事にピュアで可愛く感じ、食事を楽しんでいる様子が印象的だった。。

先生が食べる前に栄養に係る指導をしているとの事で、非常によい活動だと思った。

給食運営については、日本と同様、検品、下処理室、調理室、洗浄室と区分けしており、整備されているように思えた。ウェットな状態で備品も低位置管理をしているので、跳ね水の汚染が気になった。手洗いについても固形石鹼で食後、手洗いとうがいをしており、手洗いの習慣があるようだ。タイと比べてそこまで太った生徒がいないと感じた。



ハイバーチュン小学校 校舎入口



調理員からの教育



食堂での食事風景



視察時の給食



食事後の手洗い（固形石鹼）



下処理室



調理室



洗浄室



食器保管庫



食材保管（冷凍庫）



食材保管（冷蔵庫）



提供給食の保存



提供給食の保存



下処理室での洗剤

④ ダナン市疾病予防センター（CDC）

参加者：ヴィン局長、クアン先生（栄養分野の責任者）、レイ先生（環境と衛生）
リン先生（コーディネーター）、視察メンバー

現状と課題、今後の対応について

今年からダナン市がベトナムで一番大きくなった。

省を合併したので、今後、仕組みづくりが重要であり、力を入れている。

保健局の管轄下、予防と治療の分野があり、栄養は予防の部局となっている。

全員で 368 名 4 つの部署（法務、経理、プランニング、評価とモニタリング）、12 カテゴリーがある。

学校給食は、3 部署（環境と衛生、教育、栄養）で運営。環境、教育、栄養の部分で教育局が大きな役割を担っており、教育局をフォローするようなことを CDC は実施している。

各学校にヘルススタッフがあり、食の安全、栄養面の評価を中心に対応できるようトレーニングを実施している。

また、セーフティボードという組織があり、CDC と協力しながら、モニタリング、トレーニングを実施している。

学校での栄養教育イベントや健康診断も学校と協力しながら実施している。

CDC は、ダナン市内の地区 4 つにサブ CDC 設置しており、区のセンター（保健所）と連携してモニタリング、トレーニングを実施している。

研修の主な内容は、栄養の教育と知識の向上。学校関係者は、年間で 50 人の研修を実施。4 日間の研修で食の安全、児童の栄養等、年々内容を増加しており、完了証を提出。

様々な支援があった今までと異なり、先生たちが費用を出して認定をうける状況になり、積極的な参加になった。

研修は、妊娠と健康、栄養のことを学ぶ、内容は、教育省、保健省で決められている。

CDC では、BMI を用いて肥満指導するプレンドリーシティプログラムを展開。子供たちにシティをよくするための取組を訴えがけている。子どもたちをチェックするケースも増え、データを入手している、ダナン、ホーチミン、ハノイが裕福でオーバーフィジカルになる。ただ単に食すのではなく、バランスが重要と痛感している。また子どもたちに目でみて気づきを伝えるために教材に入れるようにしている。今後は、データを入手しているので数値検証をしていく。

学校給食の実施について、教育省から方針が出ている。器具等も含め、ガイドラインとして保育園、小学校、中学校向けで整っている。

全国の実施率は、統合までのデータだが、保育園 100、小学校 90%

食中毒発生状況は、10 月まで食の安全モニタリング機関があつたが、なくなり、今後は、CDC で把握していくサンプルを基に分析していく。実施の部分でしっかりやっていない。少しずつガイドラインに沿って対応しているところ、中学、高校は、レベルが低い。保健の先生しかいない。都会の中でも格差があり、標準化を進めていきたい。昨年、食中毒が 8 件あり。パン仕入れ、停電、水の関係、実施率、パンの原因ケースが多く、クリーミーなものが入っていて、それが原因

ホーチミンで大雨の影響。

感想

教育研修局同様、ダナン市が合併で大きくなつたので、様々な制度や、規則等仕組みづくりが大きなテーマとなつた。CDC は、学校給食関係者の研修を実施しており、栄養と衛生の教育の肝となる機関である。ダナンやホーチミン、ハノイの都市が裕福で、地方との格差があり、エリアによる二分化があると改めて感じた。

また、BMI を指標に栄養改善教育を実施状況で、都市の肥満化が課題という事だが、ハイバーチュン小学校に訪問時は、そこまで太っている児童はいないように感じた。見えていない部分があるのだと思う。



ダナン疾病予防管理センター入口、管内案内



ダナン市のエリア分布



クアン先生のプレゼン



フレンドリーシティプログラム



参加者での記念撮影

クアンチュン・ドンザン高等学校（山岳地域・寄宿舎学校）

参加者：校長先生、視察メンバー

現状と課題、今後の対応について

国のスタンダードでもモデル校ではなく、寄宿舎学校である。

非常に予算が少ない。生徒は、全体 580 名で 9 割が少数民族の子どもたち。 250 名が住んでいて、残りが通学である。1 部屋 8 名だが、希望者が多く、今は、12 名となっている。

調理は、5 名の調理員で実施。盛り付けは大人、洗浄は生徒。6 時 30 分から準備、7 時から実施。

先生たちがお金を出してあって運営しているのが現状、先生や両親に協力をいただき、規制とは違う形でできる事を実施している。寄宿舎へ入学できないと通わなくなってしまうので、工夫しながら、高校の進学率をアップさせていきたい。学校は、教材含め、全て国の支援を受けている。1 人あたり@4,000 円 1 食@50~60 円 予算が厳しいので、家庭から野菜の寄附をしてもらう。この学校がなくなると高校通学できなくなるので、何とか運営できるよう進めていく。お米の産地なので、米は十分食べさせられる。しかし、肉や卵のたんぱく質が少なくなる。スタンダードな栄養指標はあるが、予算ベースで調理員が献立を作成している。

生徒の進学は、大学が 20%、10%職業訓練、60%農業、畜産、進路ガイダンスはある。

教材、制服は、政府負担。教員になる場合は、政府負担。大学進学、就職しても途中でやめてしまうケースがある。

両親の仕事は、基本農業。ザル作り、織物、畜産が一番キヤッショになる。水の状態について。浄化システムがある。

調理員は、契約社員で 9 か月期限。土日も給食があるので夏休み 3 か月、お正月 1 か月の休みを与えている。衛生面は、CDC ガイドラインに沿ってトレーニングを実施。

水害時は、ドライフードで対応。水のキャパシティー予算が厳しい。以前は子供たちが調理していた。清掃・配膳ライフスタイルを身に着けたい。

日本の学校給食は、法律、施設、運営は、市、食材は、家庭負担となっている。

感想

ランチルームで男女に分かれて食事、第一印象は、日本と比べると身長と体重が低いと感じた。食事内容もたんぱく質が少なく、食べ盛り時期に量が少ないと思った。意見交換会で予算が厳しく、国、教育局、CDCより様々な規制、基準の指示があるが、学校継続する事が第一になるので、出来る事を実施しているのが現状であるとの事で、実態を目のあたりにした。一方、寄宿舎での生徒たちは、楽しそうに元気にまた私たちにも明るく挨拶てきて好印象だった。



クアンチュン・ドンザン高等学校入口



校長先生と視察メンバーの意見交換



FIDR 様より卵の寄付



ランチルームの様子



本日のランチメニュー



調理員がスープを配膳



ごはん保管



調理場内



残飯



生徒たちが食器洗浄



洗浄後の食器乾燥



三信化工様食器紹介



男子の寄宿舎



女子の寄宿舎と視察メンバー

総評 :

国際委員会活動として 2025 年ベトナム視察を実施いたしました。視察にあたり、田中理事長をはじめ、FIDR の出木様、大槻所長、甲斐様には多大なるご支援、ご調整を賜り、心よりお礼申し上げます。おかげさまで、現地の公的機関ならびに公立学校を訪問し、関係者の皆様との意見交換を行うことができ、極めて有意義な活動となりました。今回の視察を通じ、ベトナムの学校給食は、地域によって格差があること、また日本とは異なり教育分野ではなく福祉的視点から運営されていることを確認しました。一方で、日本の学校給食は、栄養、衛生に関する法律の整備、国と家庭の費用負担の明確化、栄養教諭の配置など、教育としての制度的な基盤のもとに運営されており、その価値の高さを改めて実感する機会となりました。今後も NPO の活動方針に基づき、国内外に向けて日本の学校給食の意義を発信し、学校給食の更なる普及、向上に寄与できるよう、引き続き、グローバルな活動展開してまいります。



特定非営利活動法人チーム学校給食&食育 2025 年ベトナム視察チーム

氏名	NPO所属	所属	派遣区分
田中 延子	理事長	株式会社オフィス田中 代表取締役	同行者
戸室 淳治	特別法人会員	東京サラヤ株式会社 サニテーション事業本部 取締役本部長	同行者
植田 賢一	特別法人会員	株式会社AIHO 海外本部 海外部 海外営業課 課長	同行者
白水 男樹	特別法人会員	三信化工株式会社 本社営業部 営業一課長	同行者
李 偉光	特別法人会員	三信化工株式会社 営業本部 海外事業グループ	同行者
曾根 美由樹	国際委員会	株式会社オフィス田中 食育アドバイザー 管理栄養士	同行者
佐々木 景子	国際委員会	秋田県横手市立横手北小学校 栄養教諭	派遣者
田中 愛	国際・献立開発委員会	愛知県豊田市立若園中学校 栄養教諭	派遣者
眞鍋 優未	献立開発委員会	熊本県合志市立西合志南小学校 栄養教諭	派遣者
金子 政道	国際委員会	東京サラヤ株式会社 サニテーション事業本部 健康経営企画部 部長	派遣者
甲斐 永里	カンボジア	(公財)国際開発救援財団 カンボジア	案内
出木 直久	東京	(公財)国際開発救援財団 業務部長	案内